

平成28年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	□奨励研究助成金	■研究成果刊行助成金
	21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	□21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	『日朝古典文学における男女愛情関係』	
研究者所属・氏名	法学部 教養・基礎教育部門 講師 山田 恭子	

1. 研究目的・内容

17～19世紀の日朝古典文学における男女の愛情関係を比較することで、両国の文学の特徴・文化・宗教的背景までをあぶりだす。今までの閉塞した両国の比較文学研究の枠を超え、新たな視点による相互理解の礎を築く。

2. 研究経過及び成果

2006年8月に韓国ソウル大学校に提出した博士論文を日本語に直し、それ以降に発表した論文も加え、全体を修正しながら著作物として整えた。

成果としては以下のような内容で、勉誠出版から2017年3月30日に刊行した。

一 序論

- 一一一 研究目的
- 一一二 資料・問題・方法

二 人物類型

- 二一一 主人公の類型
- 二一二 敵対人物の類型
- 二一三 補助人物の類型
- 二一四 比較論議

三 男女の結縁方式

- 三一一 結縁の契機と様相
- 三一二 結縁の媒介形式

四 愛情葛藤の様相

- 四一一 日本と朝鮮の作品に共通して表れる葛藤
- 四一二 両国作品の一方にだけ表れる葛藤
- 四一三 比較論議

五 愛情話素

- 五一一 日朝共通話素
- 五一二 朝鮮の作品にだけ表れる話素：天定話素
- 五一三 日本の作品にだけ表れる話素：心中話素
- 五一四 比較論議

六 愛情関係の思想的背景と文化・制度的関連

- 六一一 思想的背景
- 六一二 文化・制度的関連

七 結論

3. 本研究と関連した今後の研究計画

本研究を遂行したことで、社会構造や宗教観などが文学とは不可分の関係にあることが分かり、それに関しては本研究でも言及した。しかし特に朱子学の受容に関しては、いまだに十分に論じているとはいえない。朝鮮朱子学は主に元の政権中枢から政治的に導入された反面、同時期の日本のそれは南宋の僧侶たちを通じて、禅宗の布教のための権威付けや方便として取り入れられていったとされるが、その内容はまだまだ未詳なところが多い。また礼学に関しても、なぜ朝鮮で国を揺るがすまでに発展していったのに対し、日本ではほとんど問題視されなかったのか。つまるところ、日本における朱子学はあくまで学問レベルにとどまり、宗教としてなぜ根付かなかったのかという点に関して、十分に答えていない。今後はその点に注目しながら、朝鮮朱子学の受容と文学との関わりというテーマで日本と朝鮮の比較研究を進めていきたい。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日朝古典文学における男女愛情関係	著書	2017年3月30日